



最高の現場力

CSR Report 2015

Corporate Social Responsibility Report

鴻池組CSR報告書 [ダイジェスト]



鴻池組
KONOIKE CONSTRUCTION CO., LTD.

■ 本社ならびに本支店所在地

本社・大阪本店 〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町3-6-1	神戸支店 〒650-0024 兵庫県神戸市中央区海岸通4
東京本店 〒136-8880 東京都江東区南砂2-7-5	広島支店 〒730-8533 広島県広島市中区八丁堀2-31
北海道支店 〒060-0061 北海道札幌市中央区南一条西14-1	山陰支店 〒690-0887 島根県松江市殿町516
東北支店 〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央2-9-27	九州支店 〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名1-14-45
横浜支店 〒231-0013 神奈川県横浜市中区住吉町4-45-1	南九州支店 〒892-0825 鹿児島県鹿児島市大黒町2-11
名古屋支店 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-19-1	海外支店 〒136-8880 東京都江東区南砂2-7-5
京都支店 〒604-0857 京都府京都市中京区烏丸通 二条上ル蒔絵屋町267	技術研究所 〒305-0003 茨城県つくば市桜1-20-1



鴻池組はFun to Shareに参加しています

■ 本レポートの環境配慮について

用紙は、適切に管理された森林から出荷された木材を含む森林認証紙を使用し、インクは、VOC（揮発性有機化合物）の発生を低減する大豆油インクを使用、有害廃液を排出しない水なし印刷方式を採用しています。



KONOIKE
KONOIKE CONSTRUCTION CO., LTD.

私たちは、社会を構成する一員として、常に高い志を持ち、責任と自覚を持った誠実・公正な行動を心がけます。そして、鴻池組に関わる全ての人々からの信頼を獲得し、常に社会から必要とされ、社会に貢献できる会社を築いていきます。



社は三則を頂点とする鴻池組の企業理念ピラミッドの根底には、CSRの理念があります。公正な企業活動を通じて、鴻池組を取り巻く様々な人々との信頼関係を育み、良好な関係を保つことがCSRの基本です。その為にも、私たちは「誠実、懇切、敏速」の社は三則および「顧客満足、もの創り、人財創出」の経営理念を支える三つの礎“信頼の礎”“貢献の礎”“繁栄の礎”を行動指針として定めています。これまで培ってきた建設という「もの創り」の技術と経験を生かして、人々が豊かで安心して暮らせる社会に資すること、それが“私たちのCSR”です。

- 編集方針
鴻池組は協力会社の皆様と「チームKONOIKE」として一丸となり、「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に」をスローガンに掲げ、社会へ貢献していくことを目指しています。
CSR活動についてはウェブサイトを中心に報告媒体としていますので、本冊子は「最高の現場力」をテーマとした活動を紹介させていただくダイジェスト版です。
- 対象範囲
期間：2014年度（2013年10月1日～2014年9月30日）
- 鴻池組ホームページ
<http://www.konoike.co.jp/>

Contents	
社長メッセージ	P02
建築	P03
土木	P05
社会貢献	P07
安全・環境	P09
Topics	P10



最高の現場力をもって お客様の笑顔を最大に!

Our Best Solution for Your Best Smile!

代表取締役社長 蔦田 守弘

— 社会と共に“豊かな地球”と“輝く未来”を築きます —

- 私たちは“お客様”を第一に考える『顧客満足』こそ信頼の礎
- 私たちは“技”を磨き続ける『もの創り』こそ貢献の礎
- 私たちは“輝く人”を育てる『人財創出』こそ繁栄の礎

2014年度に新しい経営理念を策定し、この経営理念のもと「顧客満足」、「もの創り」、「人財創出」を重点ターゲットとして事業を推し進めてきました。この経営理念を支えるのはCSRですが、経営理念を実践していく上で、さらにその根底にはコミュニケーションが不可欠であると考えています。2015年度は、お客さまはもちろんのこと、従業員や様々なステークホルダーの方々とのコミュニケーション方法を改めて真剣に議論し、考えうる最善策を実践する1年としたいと考えています。これは、鴻池組がスローガンとして掲げている「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に」につながっていくものです。

例えば、プロジェクトの計画段階からお客さまと対話することによって、最善の事業計画達成方法を提案するなど、チームKONOIKEとして高品質、高機能な建物を提供することが現場力の実践となります。(P3、4参照)

ここでいう現場力とは、前述のとおり、社是、経営理念、CSRが根底にあります。これに加えてそれぞれの現場におけるさまざまな外的、内的要因を考慮しつつ、地域社会や多くのステークホルダーとコミュニケーションをとり、高品質なもの創りを実践することを

意味します。このことがお客さまにとっての満足へと結実するものと確信しています。

また、現場力を支える技術開発がインフラ整備などを通じて、多くの人たちの利便性、安全性、快適性を提供することに重要な役割を果たしています。(P6自動化オープンケーソン(SOCS)工法参照)

さて、東日本大震災から3年半が経過し、東京オリンピックまであと6年となりました。震災復興の槌音はすでに最盛期を迎えており、オリンピック施設建設やインフラ整備についてもいよいよこれからというところで、我々も建設業界の一員として精一杯社会に貢献したいと考えています。一方で、例えば入職者の減少や社会保険未加入問題など業界全体での問題にも積極的に取り組まなければなりません。社会や業界団体、協力会社とのコミュニケーションを緊密にすることで、問題の解決を図っていく所存です。





(工事名) (仮称)ビバモールさいたま新都心新築工事ならびにLIXILビバ本社新築工事 お客様が要望される事業計画を どうすれば実現できるかを突き詰める

株式会社LIXILビバ様は、LIXILグループのリテイル部門を担う会社として、全国でホームセンターとビバモール(SC)を83店舗展開されています。今回の「ビバモールさいたま新都心」は、ホームセンターとしては異例の7階建て、しかも6階・7階に本社を設けた大規模かつ象徴的な事業です。プロジェクトに携わったチームKONOIKEの営業・設計・施工メンバーを交え、LIXILビバ 店舗開発本部 店舗建築部長 戸崎浩数様にお話を伺いました。



鴻池組は、できないことを並べるのではなく、できるためにどうするかを考えてくれました

LIXILビバ 店舗開発本部 店舗建築部長
戸崎浩数様

基本設計を大幅に変えず、 アイデアとノウハウで事業計画の実現に貢献

LIXILビバ 戸崎浩数様(以下、戸崎様)：建設物価が高騰している中で、1年足らずの間に7階建てを完成させるという事業計画でしたから、建設会社にとっても難しいと想像はしていました。実際に見積りを始めてみると、コストも納期も大幅に想定を超えることが分かりました。そういった状況において、鴻池組はできないことを並べるのではなく、できるためにはどうするかを考え、「ビバモールさいたま新都心」を事業投資の枠内に納める提案を次々にもってきてくれました。

大橋達也：当初の基本設計は8階建てで、7階と8階に本社オフィスが入る予定でした。私たちは、実施設計の段階で、全体を7階建てにし、6



納期に間に合わせるためには、セオリーと異なる工法をとることも重要でした

桂城 剛 (仮称)ビバモールさいたま新都心新築工事
ならびにLIXILビバ本社新築工事

階と7階にオフィスを設ける提案を行いました。1階層減らすことで、施工面積が減り、材料も少なくできるため、コストダウンが図れますし、工期も短縮できます。一方、建物全体の余剰スペースを徹底的に削ぎ落とすことで、オフィスやホームセンター、テナント、駐車場などは、基本計画通りに面積を維持できるようにしました。

桂城 剛(以下、桂城)：工事事務所長が設計提案の段階から参加する機会はあまり多くないのですが、今回は、コストもスケジュールもタイトな事業でしたから、設計の段階からキャッチボールをしながら作り込んでいきました。鉄骨などの資材も、将来の値上がりを見込んで早い時期に発注をかけるなど、購買についてもノウハウを駆使して、コストダウンを図りました。



野津正幸(以下、野津)：営業は、チームKONOIKEの第一走者だと認識しています。本社移転をとともう象徴的な事業を手がけさせていただくことは、私たち建設会社として大変名誉なことです。ですから、最初のステップとして、全社一丸となって、ベストメンバーでチームづくりをさせていただきました。

本社移転をとともう象徴的な事業に取り組みするために、チームづくりに注力しました

野津 正幸 建築営業部



見積り段階から、設計と施工が一体となって、アイデアを出し合いました

大橋 達也 建築設計第1部



あえてタワークレーンを使わないことで、 納期をクリア

桂城：8階建てから7階建てにしたことで、ある程度の工期の短縮は見込みましたが、それでもまだ「ビバモールさいたま新都心」のオープン予定日には間に合いません。通常、この規模の工事ではタワークレーンを使用するのですが、タワークレーンは設置や撤去に時間がかかるため、あえてセオリーとは異なる工法をとり、建逃げ工法を採用しました。建物の断面が見えた状態で、7階分を端から建てていくというイメージです。工期を短縮することで、コストも低減することができます。

戸崎様：基本計画を大幅に変更すれば、コストダウンは比較的容易に行えます。鴻池組は納期を守り、さらにお客様や従業員の使い勝手といった機能の確保や法的な要件をクリアするのももちろんのこと、地域一番の品揃えを実現するための売場面積を確保しながら、コストダウンを図る方法を提案してくれました。「ビバモールさいたま新都心」は、ホームセンターとしては数少ない、市街地への出店となりましたが、近隣の方々への工事での対応もきめ細かに行っていただいたことで、今では、オープンを心待ちにくださっている方もいらっしゃいます。また、鴻池組には、新規出店に関する用地のご紹介もしてもらい、弊社の発展に大きく寄与していただいています。

野津：今後も、鴻池組はLIXILビバ様のご発展並びに地域振興の一助になりたいと考えています。



建逃げ工法で
工期の短縮を実現

建物の断面が見えた状態で写真奥から手前に建てていきました。



実際に住む方の立場で、
災害公営住宅を建てています。

実家のある福島県(いわき市)から仙台への道すがら、多くの仮設住宅を見るたびに3年半前の東日本大震災を思い出します。私も福島の現場で震災を経験しました。今回、山元町の現場に配属となり、仮設住宅で生活されている方々の一助として災害公営住宅の建設に関われることに、とても感慨深く感じています。住まわれる方により良いものを提供できるよう日々土木、建築一体となって工事を進めていきたいと考えています。

田仲 敏文(右) 新坂元駅周辺地区市街地整備工事



地域の方々に安全と安心を
届けるのが願いです。

過去の教訓から、被災者からの最も強い要望のひとつとして震災直後の飲料水の供給があります。このため、当現場では地震に強い地中深くに水道管を埋設する工事を行っています。地盤を地中深くまで掘削する特殊機械を用いて施工するため、社内の様々な部門や協力会社と連携し「チームKONOIKE」として最高の現場力を発揮し、工事を進めています。

山内 佳樹(右)・大森 達彦(左) 東大和市清原一丁目地内送水管(2000mm)用立坑築造工事

(工事名)新坂元駅周辺地区市街地整備工事

一日も早いインフラ整備に向け、社内外と連携

宮城県山元町 震災復興事業<住まいる(スマイル)プロジェクト>

山元町は宮城県の南部に位置する太平洋側に面した津波被災地です。本工事は同町坂元地区に、9.6haの土地を造成し、現在復旧工事中(他社)の常磐新線新坂元駅を中心とした新市街地を形成するもので、設計施工一括発注方式で災害公営住宅(56住戸)の建築、分譲住宅地(42宅地)、公共施設用地、商用施設用地、交通広場等を築造するものです。多くの被災者が待ち望む震災復興事業として、一日でも早いインフラ整備・住宅供給が大きなテーマとなっています。

最高の現場力の実践

坂元地区は地下水位が高く、軟弱な砂と粘土が厚さ10m程度で互層に堆積しており、安心して暮らせるまちづくりのためには地盤改良工事が必要でした。そのためさまざまな工法を駆使するとともに、最盛期には杭打ち機械を通常の倍である10台投入しました。工法に関しては技術部門と連携し、資機材などの手配に関しては店内各部門、地元関係者、協力会社の支援により最高の現場力を実現しています。2014年9月には、

土木工事と並行して災害公営住宅建築工事にも着手しました。建築工事においては工場でのユニット化が可能なツーバイフォー工法を採用し、2015年4月から開始される公営住宅の部分供用に向け工期の短縮を図っています。

最高の現場力を発揮するためには、地域の方々のコミュニケーションも欠かせません。夏祭り、花火大会、ふれあい産業祭など地元行事への協賛や参加、文房具、建材、毎日のお弁当の地元調達などを積極的に行っています。地元小中学校の先生方を招いた現場見学会では、高さ30mもある地盤改良機が動く様子を間近でご覧いただき、土木工事の迫力や復興の確かな歩みを感じていただきました。

2016年3月の工事完成に向け「チーム山元心をひとつに」を合言葉に、現場職員、店内各部門、地元関係者、協力会社とともに工事を進めていきます。

さらに詳しく知りたい方は、こちらのURLをご覧ください:

<http://shinsakamoto-seibi.jp/>



現場見学会

イメージパース(山元町提供)

(工事名)東大和市清原一丁目地内送水管(2000mm)用立坑築造工事

住宅地の環境に配慮しながら独自の技術を駆使し、震災時でも安全な水の供給に寄与

大深度立坑の昼夜施工<自動化オープンケーソン(SOCS)工法>

東京都では、東日本大震災の教訓を活かした安全・安心な社会基盤整備のため、震災や事故などで個別の施設が停止しても可能な限り給水できるよう、送水管のネットワーク化を進めるなどバックアップ機能を強化しています。

現在、その一環として東京都多摩地区における送水管(φ2000mm)を整備する事業が行われていますが、本工事はこの送水管敷設のための立坑を築造するものです。立坑は深さ42m、内径13mと大深度・大口径の地中構造物で、大きな井戸を掘るようなイメージです。ケーソン工法と呼ばれる工法で、地上で製作したリング状のコンクリート壁を特殊な機械を使用して粘土や砂・玉石でできた地盤に沈めていきます。この現場では鴻池組保有技術であり、実績も多い「自動化オープンケーソン工法(SOCS)」を採用しています。本工法は、ケーソン先端部の地盤を無人の水中掘削機で直接掘削するため、従来のオープンケーソン工法では

困難であった硬質地盤に対しても施工が可能です。確実な掘削を行うことができるとともに、電動モーターによって動いているため、騒音・振動等による周辺への影響も少なく昼夜施工を行っています。

早期完工のために

現場では、安全や品質の確保、周辺環境への影響低減を図りながら、特に「工事の早期完了」に力を入れ工事を進めています。このため現場では(1)日々の確実な施工管理と使用機械の保守管理による着実な工事の進捗(2)当社関連部署(技術・工務・営業・機材)との緊密な連携による施工体制の強化、現場技術力の向上・維持(3)全員参加型ミーティングによる現場内コミュニケーションの充実(4)騒音などの現場体験実施による地域の方との交流(5)現場見学会の積極的な実施を目標に掲げ、日々邁進しています。また若手社員に対する教育ではOJT(職場内教育)をコミュニケーション充実のためのツールととらえて実践し、人財の育成に取り組んでいます。これからも「チームKONOIKE」として最高の現場力を発揮していくことで、1日も早い工事完了を目指しています。



SOCS全景



SOCSによる水中掘削施工状況



地盤改良施工状況

地域住民の目線での社会貢献

名塩道路八幡トンネル工事では、マンションと高速道路に挟まれた都市部で、上下線2つのトンネルを同時に施工しています。トンネル同士が非常に近接したメガトンネルとよばれる構造になっています。この特殊な構造断面のトンネル施工にあたり、最新技術を駆使して安全を確保するとともに、地元行事への参加や工事見学会の開催など地域とのコミュニケーションを充実させることで、地域住民の目線での社会貢献を目指しています。

山田 浩幸(右) 名塩道路八幡トンネル工事

(工事名) 名塩道路八幡トンネル工事

積極的な情報公開と地域とのコミュニケーション

本工事は都市部での山岳トンネル工事であるため、周辺環境に配慮した騒音・振動および粉じん対策を実施しています。近接する集合住宅(マンション)をはじめ地域住民の皆様により詳細な工事説明を行い、また2週間分の工事予定を配布・掲示しています。積極的に現場の情報を公開することにより、工事への理解を深めていただくようになっています。

また地域住民の皆様とさまざまな方法でのコミュニケーションを図っています。名塩八幡神社の秋祭りに参加して地元の皆さんと協同で地車(だんじり)の曳き廻しを行ったり、西宮市内で一斉に実施された「わがまちクリーン大作戦」には作業員宿舎のある町内会のメンバーとして参加しました。また地元の自治会・小学校の皆様を対象に現場見学会を開催しました。今後もコミュニケーションを欠かさず、工事への協力をお願いしていきます。

さらに詳しく知りたい方は、こちらのURLをご覧ください:

http://www.konoike.co.jp/works/konoike_diary/detail/001052.html



現場見学会

地域の方の声

1985年に計画され地域の念願となっている名塩道路の事業が、30年の時を経てやっと動き出しました。トンネル工事の施工を担当している鴻池組には地域の小学生・住民を対象に普段は見ることのできない工事現場の見学会を開催していただき、日頃より地域の活動へ積極的に参加されるなど感謝しています。トンネル貫通セレモニーでの、日差しが暗闇の中に入ってきた瞬間には感動しました。今後も私たち地域住民との交流を深め、工事を無事に完成させてください。



名塩自治会 会長 上山 一三様

NPOや社団法人への協力を通じた社会への貢献

「エコキャップ運動」への参加

鴻池組は、NPO法人エコキャップ推進協会が主催する、ペットボトルのキャップを集めて専門のリサイクル業者へ送り、その収益金を途上国の子供たちのワクチン代や被災地支援に役立てる「エコキャップ運動」に賛同し、継続参加しています。この活動は、収益金による支援活動のほか、「再資源化」・「CO₂の削減」といった側面もあり、環境保護の観点からも有意義な活動です。



「ユネスコ書きそんじハガキキャンペーン」への参加

鴻池組は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が主催する、未使用ハガキを回収し、学校へ行けない子供たちへの教育支援等へ役立てるという活動に賛同し、継続参加しています(※1枚50円の書きそんじハガキは45円の募金となります)。毎年12月~3月の間に社員へ呼びかけ、年賀状などの書きそんじの官製ハガキを回収し、同協会へ寄付を行っています。



人とのつながりが国際貢献につながる。

在留邦人のほとんどが直接または間接的に日本の国際開発援助に携わっているタンザニアでは、在留邦人社会のさまざまな活動を通じて同国と日本人のつながりを大切にすることが、草の根レベルではありますが、国際貢献や日本のプレゼンス向上につながるものと考えています。

西村 央 タンザニア事務所

「タンザニア日本人会」の夏祭りでの交流

鴻池組タンザニア事務所は、タンザニアの在留邦人の最大団体である「タンザニア日本人会」の夏祭りに毎年協力しています。毎回企画段階から参画し、タンザニア事務所の敷地を提供し、櫓や提燈の設置、屋台の設営なども行っています。

夏祭りには350人以上が参加しますが、そのうち200人以上はタンザニアやその他の国の方々です。祭りに参加する日本人の多くは浴衣を着て盆踊りを踊り、子供たちは神輿を担ぎ、会場にはたこ焼き、焼きそば、クレープなど食べ物の屋台やヨーヨー釣りなどの子供向け屋台も出て、日本の夏の風物詩となっている夏祭りを行っています。参加する外国人も一緒に盆踊りを踊り、日本の屋台の食べ物を楽しんでいます。鴻池組では10年以上カレー屋台を出店、「コウノイケ・カレー」として現地でも有名になり、これが目当ての参加者もいるそうです。2014年の祭りでは、国際協力機構(JICA)の研修を日本で受けた研修員たちの団体によるタンザニアフードの屋台の出店、ラム酒を製造して発売を始めたタンザニア企業の試飲販売、チビテ楽団*による同国伝統のダンスの披露など、同国の人たちとも協力し、盛大に行われました。

夏祭りの際に集まる日本人がタンザニアや他の国の人々と交流を深め、そして互いを尊重して理解する良い機会となっており、そこから各種団体が行っている同国支援や人材育成につながっていくきっかけとなれば喜ばしいことです。

「タンザニア日本人会」は同国に居住する在留邦人の親睦団体ですが、傘下には日本企業22社からなる商工部会を有し、そのほかに在留邦

人の子女教育のため、ダルエスサラーム日本語補習授業校も運営しています。「タンザニア日本人会」は日本語補習校の運営を通じて子供たちに日本語による勉学だけではなく、日本の習慣や日本人としての心構えも教え、生涯を通して成長・発展するための基礎づくりを行い、国際的視野を持った日本人を育成する努力をしています。この夏祭りは、いずれ世界に羽ばたくこの子供たちへの日本の夏の贈り物でもあります。

※タンザニアの有名な音楽家が育てたメンバーによる楽団。「チビテ」とは英語で「Let's Go」にあたります。



タンザニア日本人会主催の夏祭り



チビテ楽団によるタンザニア伝統ダンスの披露



危険性・有害性に対する予測力を養っています。

毎月行う安全衛生・環境パトロールでは、現場で働くチームの一員がケガをしないように、小さな危険の芽を逃さないように緊張感をもって現場に向かいます。現場では、その場で不安全な設備や行動に対して注意喚起するだけでなく、今後予測される作業や設備の危険性や有害性に対しても指導するよう心がけています。近隣住民の方々にも迷惑をかけるようなことのないよう、公衆災害や環境災害の防止対策の確認にも努めています。

岩丸 真也(右) 安全環境部

安全に関する取り組み

『COHSMS=コスモス』による妥協のない安全管理を実施しています

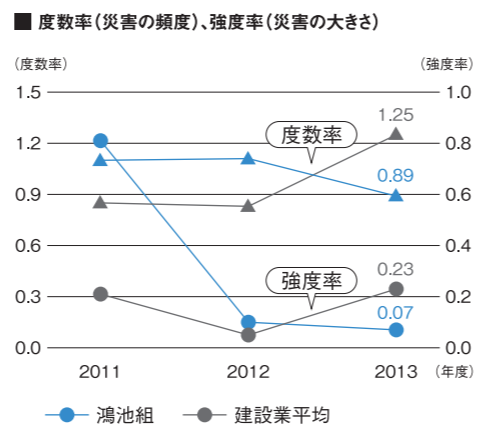
2014年4月に建設業労働災害防止協会より、建設業労働安全衛生マネジメントシステム(COHSMS=コスモス)認定基準に適合している事業場として、全店一括認定を受けました。(本社、大阪本店、東京本店、東北支店、名古屋支店、広島支店、山陰支店、九州支店)

安全は会社の良心を示すバロメーターであると認識し、「チームKONOIKE」が一丸となって、安全衛生スローガン「周りに一声、自分に対して一呼吸」を合言葉に、妥協のない具体的な安全方策を実施することによって、安全・安心・信頼を確立していきます。

安全管理の一つとして行う現場パトロールでは、経営トップをはじめ多くの役職員が現場に赴き、危険が潜む作業を安心できる作業へと改善させる指導を行うことによって、チームKONOIKEの結束とコミュニケーションを図っています。



社長による現場の安全衛生・環境パトロール
(九州新幹線(西九州)、新長崎トンネル(東)他)



環境に関する取り組み

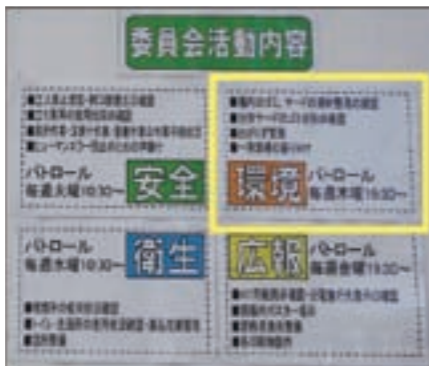
『環境保全と汚染の予防』に、主体的に取り組んでいます

環境法規制やその他の要求事項の順守と地域住民の皆様とのコミュニケーションによって、生物多様性や地球温暖化防止などの環境保全と建設副産物削減など循環型社会実現に取り組んでいます。また地域社会への環境影響に対する最大限の配慮をし、影響を最小限に留める努力を継続しています。

現場では、チームKONOIKEで構成される職長会が委員会活動の一つとして環境パトロールを実施し、ゴミの分別やほこり飛散防止用おがくずの管理状況などを点検しています。また、グリーン電力証明発行事業者からの電力購入により、CO₂の削減や再生可能エネルギーの普及に貢献しています。



整備された建設副産物分別・集積ヤード
(江東区(仮称)シビックセンター新築工事)



職長会による環境パトロール活動内容
(江東区(仮称)シビックセンター新築工事)



職長会による環境スローガンの掲示
(草加松原2期2BL(東街区)住宅建設工事)



キーワードは「若手社員」と「コミュニケーション」です。

技術力向上につながる専門プログラムの充実はもちろんのこと、共通プログラムでは、STEPごとに必要なコミュニケーション力について体系的に教育を実施しています。このことにより、人材育成の基本であるOJT(職場内教育)をより効果的なものにする狙いがあります。若手社員の成長願望を促し、会社全体で育てる企業風土をさらに醸成させ、この相乗効果により、プロフェッショナルな人材の創出につなげたいと考えています。

「プロフェッショナルな人」への成長を促進

2013年10月に刷新した経営理念のもと「人材に磨きをかけ、社員の成長を促す仕組み作りと、より実効性の高い人材育成戦略が必要」との思いから、各部門の部長クラスを集結し「人材創出に向けたプロジェクトチーム」を立ち上げました。

同チームから実態に即したキャリアプランや教育カリキュラムについての答申を受け、2014年4月より新たな人材創出プログラムをスタートさせています。

プログラムでは、当社が育てていく人材＝“輝く人”を「プロフェッショナルな人」と定義し、社員が成長する過程において、目指すべき人材像を5段階で明示しました。

- STEP1「信頼」⇒一緒に働きたいと思われる人
- STEP2「自律」⇒自ら学び、考え、行動し、やり切る人
- STEP3「チャレンジ」⇒“最高の現場力”を発揮し、積極果敢に挑戦する人
- STEP4「リーダーシップ」⇒目標を示し、部下を導き、達成に向け邁進できる人
- STEP5「マネジメント」⇒経営方針のもと、社内外の人と組織を動かすことのできる人

また、各STEP、各階層で目指すべき人材となるために必要な教育を、「共通プログラム」と各事業本部単位の「専門プログラム」に組み込み、実施に移しています。

近年、集中豪雨などによる自然災害が多発しています。建設会社の使命は社会インフラを整備することですが、自然災害の拡大を防ぐ防災・減災への取り組み、そして災害からの早期復旧により人々の平穏な生活を取り戻すことも建設業の役割です。ここでは自然災害発生直後に鴻池組が取り組んだ事例を紹介します。

七瀬川合流部樋門工事での取り組み

2013年9月の台風18号の豪雨により、和歌山県では紀ノ川が増水し、堤防の一部が崩壊しました。鴻池組は国土交通省近畿地方整備局からの要請で作業員とともに建設重機を現場へ搬送し、他の7社と協力して堤防崩壊の拡大を防ぐための応急対策工事を施工しました。



作業状況



感謝状

上北沢共同溝工事での取り組み

2014年2月8日および14日、東日本では記録的な大雪により交通機関が大きな影響を受けました。上北沢共同溝工事の現場である東京都世田谷区～杉並区の国道20号周辺も積雪のため車両などの通行が困難となっていたため、鴻池組は協力会社とともに除雪作業を実施しました。



除雪作業



感謝状